



心を尽くして主に信頼し、自分の分別には頼らず 常に主を覚えてあなたの道を歩け。
そうすれば 主はあなたの道筋をまっすぐにしてくださる。

(箴言 3章 5～6 節)

「担は私立どこ受けるん？」中学3年生の時、同じクラスの親友に尋ねられました。「まだ分からへん。」併願で、しかも公立高校への進学だけを私は考えていました。「自分は清教受けようと思うんや。ええ学校らしいで。」「そうなん。そしたら、僕もそこ受けようかなあ。」

受験の結果、私たちはそれぞれ公立高校の道が閉ざされ、清教学園で学ぶことになったのです。しかし、このようにして始まった私の清教学園高等学校での3年間は何にも代えがたい期間となりました。学び舎は物事の分別を知り、培われる大切な所です。それは教室で学び取るだけでなく、授業以外の時間や、同級生たちや教師たちとの関わりの中で培われるものも、とても多いのです。私の清教学園での歩みはまさにそうでした。

この聖句は分別を軽視しているのでは決してないでしょう。分別は大切です。ここではむしろ、神である主について、心を尽くして信頼すること、常に覚えることを教えているのです。この主は、目には見えないけれども、天地を創造し、私たち人をも創造したと聖書に記されています。今も私たち一人ひとりを心に留め、大切に関わってくださいます。私たちは自分の分別を主に置き換えてしまうことはないでしょうか。

ザンビアの暴動を逃れて、南アフリカの荒地へ家族で移住し、さまざまな困難を通りつつ開墾したアンガス・ブーチャンの歩みを描いた Faith Like Potatoes という映画があります。アンガスはジャガイモを育てるには適さないと言われ続けた土地に、汗と涙を流しつつ何度も手を入れ、やがて豊かな実りを目にするのです。神に感謝する姿には心を打たれます。苦難の中でアンガスは家族と共に教会へ行くようになり、やがてイエス・キリストへの信仰が与えられていました。印象的な彼の言葉があります。

「土の下でジャガイモがちゃんと育っているかを確認するために、掘り返すことはできない。土を備え、ジャガイモを植え付けたならば、神がジャガイモを成長させてくださることを信頼しつつ、雨を求めて神に祈り続ける！」

聖句には主に信頼する者への約束が続きます。「そうすれば 主はあなたの道筋をまっすぐにしてくださる。」私は幼いころから主を信じていました。願った道が閉ざされることで、始まった清教学園での歩みについて、しばらくは「遠い!」「坂がキツイ!」と私の内には不満がありましたが、やがて「これは主が開いてくださったのだ」と感謝できたのです。私には主を信頼することにおいて、成長した時期でもありました。一步一步、神が備えてくださる道を歩み、後に自分の人生を振り返り、「ああ、このように神は助けてくださっていたのだなあ。」と知ることは幸いです。

清教学園での歩みを通して、主に信頼することの幸いを味わうことができるように祈ります。

